

## ALTERNATIVE WORKSCAPE

## 地域内就労空間が変える郊外の暮らし



宮原 伶奈  
(みやはら れいな)

千葉大学  
工学部  
都市環境システム学科



都心回帰や時間と場所を選ばない働き方が選択される一方で、首都圏郊外に住まう都心勤務者のワークライフバランス実現は未だ難しい課題とされる。在宅勤務制度導入企業が増加するも執務に適した空間がないという理由から、制度利用者数は留まっている。本提案では各家庭から徒歩圏ある自治会館を就労空間化し、郊外に住む都心勤務者が週の一部を在宅勤務制度を利用して自宅近くで就労可能な環境構築をめざす。同時に、自治会活動のコミュニティビジネス化を図ることで、まちの環境維持持続性を向上させる。「働く空間」が生まれることで、そのまちに無理をせず住み続けることを可能となる。首都圏郊外部にとって、そのゴーストタウン化が懸念される今日にあっては地域内に就労空間を設けることがひとつ打ち開策となるのではないだろうか。



講評

多様化するライフスタイルや災害時のリスクの分散、待機児童を抱える女性の職場復帰等に合わせフレックスタイム、在宅勤務など新しい勤務形態の提案がなされ、取り入れる企業が増えていると聞きます。しかし、それら新しい勤務スタイルを受け入れられる住環境を持つ労働者は決して多くはないでしょう。この作品は職住近在の場の確保・在り方を問題提起し、地域コミュニティーの場である自治会館に着目し就労の場の確保、更には高齢化し衰退化する自治活動の活性や地域環境への配慮にまで十分にプログラムが構成され、素晴らしいストーリーなっていたと思います。ただし、プログラムを具現化する建築物に明確なデザインコンセプトが提示されておらず魅力ある建築にまで計画が及んでいないのが悔やされます。プログラムが魅力ある建築にまで昇華された姿を見てみたいです。

(審査委員：海老原 智子)

